

第2回理事会資料

ソフトバレーボールの更なる普及のための 魅力ある連盟運営への提案

OSVF 連盟活性化プロジェクトチームならびに
2022 年度アクティブリーダー研修会グループディスカッションから

2022 年度連盟活性化プロジェクトチーム

2022 年度連盟活性化プロジェクトメンバー

| | | |
|------------|--------|---------|
| プロジェクトリーダー | 寺西 勉 | 指導普及部長 |
| メンバー | 岩本 達矢 | 競技部長 |
| メンバー | 一ノ谷規陽子 | 指導普及副部長 |
| メンバー | 小山恵理子 | 審判副部長 |
| メンバー | 小林勇紀 | 競技副部長 |
| メンバー | 小山裕哉 | 総務副部長 |

会議の開催日一覧

- ・2022 年 5 月 7 日 アクティブリーダー研修会
- ・2022 年 8 月 6 日 第 1 回 PT 会議

＜アクティブリーダー研修会グループディスカッションの内容も踏まえ今後の連盟活性化方策等についてのとりまとめ＞

- ・2022 年 8 月 16 日 ＜メールにてプロジェクトメンバーに対して活性化方策とりまとめ(案)の提示と意見集約＞
- ・2022 年 8 月 23 日 ＜第 7 回運営委員会にて活性化方策とりまとめ(案)の報告及び意見交換＞
- ・2022 年 11 月 26 日 ＜役員研修会にて活性化方策とりまとめ(案)について班別ミーティング＞

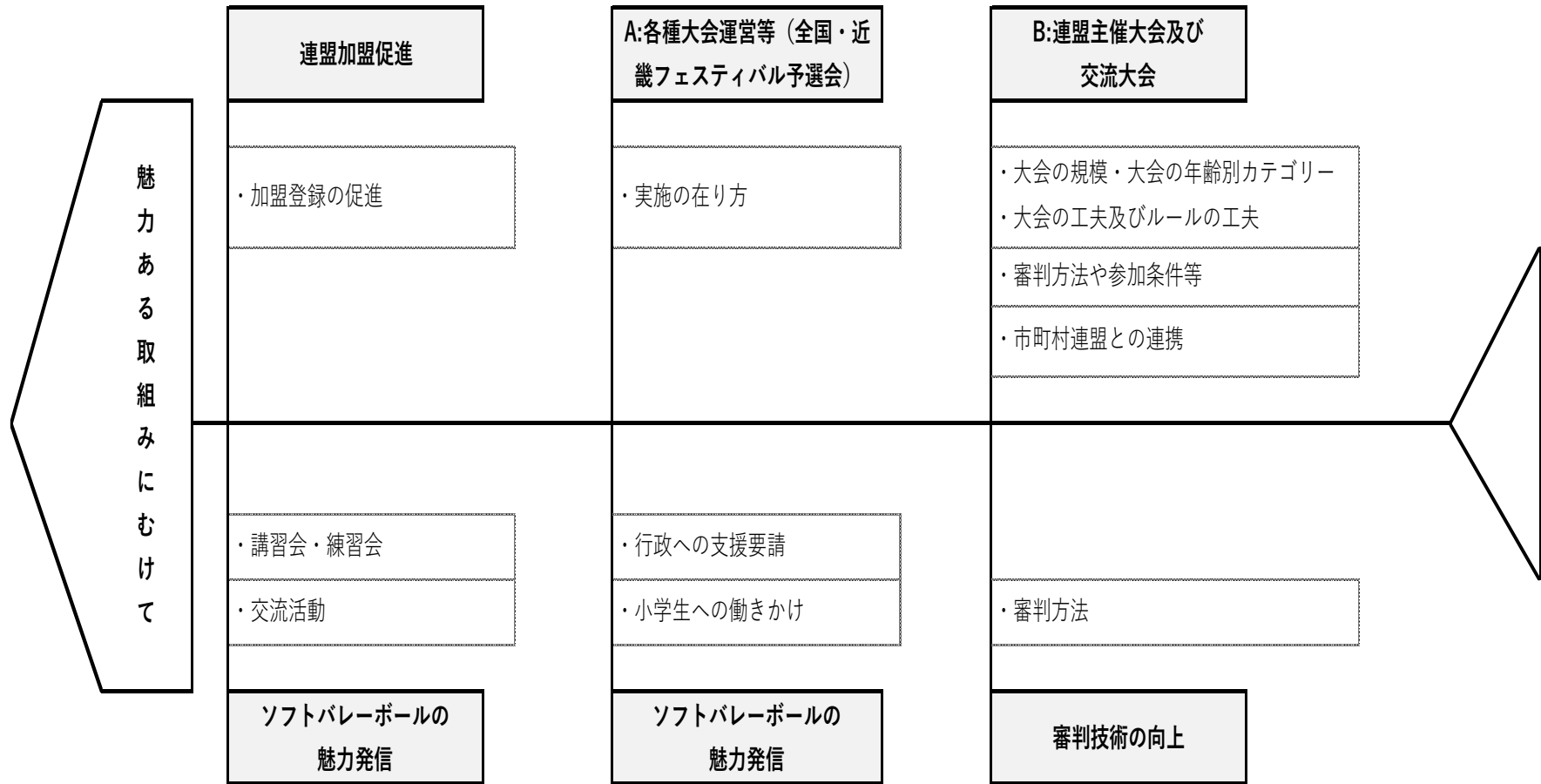
はじめに

大阪府ソフトバレーボール連盟（以下「本連盟」）では、連盟加盟数のチームの減少傾向に関する対応策として2019年度に「活性化プロジェクトチーム」を立ち上げ、大阪府内のソフトバレーボール愛好者・チームに本連盟や実施事業に関心を持ってもらい、加盟という方向に導けるかを検討しその方策を策定するという取組みを行ってきた。2021年度についても継続して検討するとともに、府内各市町村における活動状況や課題等の把握のためにアンケート調査を実施した。43市町村のうち35市町村より回答をいただいた。市町村連盟においても、登録チームの減少や高齢化などの課題もある中で域内の普及活動に取り組んでいる状況が把握できたとともに、本連盟の活動内容の把握については1/3の13市町にとどまっていることがわかった。本連盟として情報発信の仕組み等の活性化方策の更なる検討が必要であることがわかった。2021年度における検討事項については、2022年2月に第3回理事会にて報告した。

2022年度も引き続き協議するとともに、5月に実施したアクティブリーダー研修会にて『ソフトバレーボール更なる普及のための魅力ある取組の提案』として参加者にグループディスカッションを行った。本報告はこれまでの活性化プロジェクトチームの協議及びアクティブリーダー研修会グループディスカッションにて出された意見を5つのカテゴリー『連盟加盟促進』『A：各種大会運営（全国・近畿フェスティバル）』『B：連盟主催大会及び交流大会』『ソフトバレーボールの魅力発信』『審判技術の向上』に分けてまとめたものである。

1. 構成図

魅力あふれるソフトバレー並びに連盟活性化にむけて



2. カテゴリー別提言

| カテゴリー | 連盟加盟促進 |
|--|--|
| 項目 | 加盟登録の促進 |
| OSVF 専門部 | 総務部 |
| アクティブリーダー研修会 や活性化PTにて出された 具体的な意見 | <p>◆-1 加盟タイプの区分及び区分別の加盟料については、2019年度プロジェクト会議にて検討をし、2020度に規約を変更した事項である為、現状といってもコロナ禍での運用であり、今暫く様子を見る必要ある（改定の検討が必要では）【活性化PT】</p> <p>◆-2 連盟未加盟のチームや加盟脱退チームに、「加盟方法を見直したことで選択肢が増え、各チームのニーズに合った加盟が出来るようになった」ということを周知することが必要あり【活性化PT】</p> <p>◆-3 加盟に係るタイプはすでに規約に(掲載)規定されているが、今後N加盟のチームの増加が見込まれるのか疑問の余地が残る。N加盟を済ませていないと全国・近畿予選会への出場ができないという条件設定は予選会に出場するチーム数が減少傾向にある中で厳しい【活性化PT】</p> <p>◆-4 規約5条によれば本連盟の加盟は「本連盟の趣旨に賛同するチームで構成される」（となっており）とし、各チームによる直接加盟が原則と（なっている）としている。しかしながら、規約2条の目的には、「府内のソフトバレーボール組織の統括し、…」（となっている。）しているが、府内の市町村には独自にソフトバレーボール連盟が設置されているところもあるがそこの連携やチーム加盟に関する補助的な関わりがないのが現状。加盟タイプの周知がどれだけできているのかも不明。今後、市町村連盟への（としての）加盟を促進していく必要あり。また、連盟設置（市町村単位でなくても広域連盟もあり）の支援も考えていくことが規約2条の達成に繋がるのではないかと考える。【活性化PT】</p> <p>◆-5 予選会を兼ねている大会は、近畿大会や全国大会の予選会であるという冠がついていることで敷居が高いと感じてしまっているチームもあると思うので、カテゴリー分けを行い、審判等を連盟役員がヘルプする初心者でも参加出来る大会も開催してはどうか。【活性化PT】</p> |
| OSVF 連盟見解 | <p>◆-1～3：2019年度に規約改正を行い加盟タイプを全国フェスティバル出場を目指すチームをN加盟、府内大会を目指すチームをP加盟とし、P加盟についてはMR S個人登録の必要なしと規定した。今年度コロナ過の中加盟チームの予選会出場増加推進対策とし全国フェスティバル予選会出場に関わる参加要件を緩和し、代表権を獲得後の登録も可とし、P加盟であっても予選会</p> |

| | |
|--------------------------------|--|
| | <p>出場を可能とする特別運用を行った。次年度も特別運用を継続する。</p> <p>◆-4：加盟については、コロナ禍の中で対面によるチーム代表委員会が開催できていないこともあり、登録既定改定の意図の理解が進んでいない現状があると認識している。今後チームへの周知方法等について検討必要である。チーム代表委員の責務についても理解していただけていない。こちらの周知徹底も進める。</p> <p>◆-5：これまで止む無く、全国フェスティバル予選会と実業団体育協会大会の併用大会としたことがあった。これまで武田薬品大阪体育館が借用できたが今後借用できない見通しであるため、今後は予選会単独開催を目指した公設体育館確保に努める。</p> <p>◆-4：現在のところ、市町村連盟単位での OSVF 加盟については難しいと考える。市町村連盟との結びつきについては一部の市町村連盟において、当該連盟が主催する審判講習会等への講師派遣を行っているところもある。また、コロナで中止になったが、実業団大会において市町村連盟推薦チームの参加申込をしたところ茨木市からの参加があった。このようなことから、今後は講習会や大会等を通じて連絡体制を整備していき連携促進を図っていきたい。</p> |
| <p>改善のすすめ方 (タイムスケジュール)</p> | <p>引き続き加盟促進に向けた検討を進める。市町村連盟との連携については市町村連盟へのニーズの把握を行いながら、定期的な連絡体制の整備にむけた方策の検討を行う。</p> |

| | |
|--|---|
| カテゴリー | A:各種大会運営等（全国・近畿フェスティバル予選会） |
| 項目 | 参加要件 |
| OSVF 専門部 | 競技部 |
| アクティブリーダー研修会 や活性化PTにて出された 具体的な意見 | <p>◆-1 予選会の参加（条件）要件に（m r s）MRS 登録を除き、予選会の結果全国/近畿出場が決定（すればm r s）後 MRS 登録を行うよう規制の緩和を図る（チーム出費の負担軽減）【活性化PT】</p> <p>◆-2 本連盟の主催大会については、大きく2つのカテゴリー（A:全国・近畿フェスティバル予選会の運営。B:独自大会の開催運営と普及活動）である。AについてはJSVFの（要項）規定を遵守し開催せざるを得ない。ただ、加盟との関連でN加盟前提では今後もチーム数の増加は見込めず、結果として毎年同じチームによる予選会開催が推測される。全国フェスティバルの出場決定後のN加盟も認めていく方向も要検討。さらに市町村連盟との共催で市町村予選会の代表チームも参加を認めていくのも一案。また、他府県の予選会の状況は把握していないが、本府と同じような状況があるならばブロック予選会も一考の余地あり。【活性化PT】</p> <p>◆-3 事前のオンライン抽選を制度化して、大会の時間短縮を考えていく。【活性化PT】</p> |
| OSVF 連盟見解 | <p>◆-1：2019年度に規約改正を行い加盟タイプをN加盟、P加盟とし、P加盟についてはMRS個人登録必要なし（チーム登録は無料のためチーム登録を求めると規定している。今年度コロナ過の中加盟チームの予選会出場増加推進対策とし全国フェスティバル予選会出場に関わる参加要件を緩和し、代表権を獲得後に登録も可とし、P加盟であっても予選会出場を可能とする特別運用を行った。次年度も引き続き（継続）特別運用を進めていく。ブロック予選会については、全国フェスティバル予選会の規定により府県を超えての開催は不可となっており難しい。</p> <p>◆-2：2022、2023年度の特別運用化における全国フェスティバル予選会参加状況を踏まえ、現行のN、P加盟の登録規定改定の検討を進める。</p> <p>◆-3：2022年度から取り組んでいる、全国フェスティバル予選会の連盟責任抽選（HP 配信）は継続し、他の大会についても従来通り連盟責任抽選とする。</p> |
| 改善のすすめ方 | 運営委員会、大会実行委員会にて早急に検討する。 |

| | |
|--|--|
| カテゴリー | B:連盟主催大会及び交流大会 |
| 項目 | 大会の規模・大会の年齢別カテゴリー・大会の工夫及びルールへの工夫・審判方法や参加条件等 市町村連盟との連携 |
| OSVF 専門部 | 競技部・審判部・指導普及部 |
| アクティブラーダー研修会 や活性化PTにて出された 具体的な意見 | <p>●-B 校区等エリアで大会をする ●-E 市町村会への働きかけ ●-E PTA、自治会の行事での実施 ●-E 交流会の企画</p> <p>●-A 練習会場を公開して、その場所にチーム・個人が集まって小さな試合を開催する ●-A 生涯スポーツなので元気な 50～60 歳の地域イベントを開催 ●-B 小中学校、高校や大学での授業 ●-B 高齢者のグループを増やす ●-C 年齢を混ぜてチームを作る。必ず小学生と高齢者を入れる (MIX) ●-C 合計年齢方式による参加条件 ●-D 35 才—30 才、40 才か—40 才の枠を作る ●-E 子どもたちの参加(家族、友達) ●-D 北区などファミリーで大会などがあるので、地域でファミリーの大会などする ●-C ねんりんクラスのプレイヤーとしての参加 (人口が少な過ぎるので) ●-A 入り口を PTA 等を通じた個人参加型の試合を開催 ●-B いろいろなチームと交流試合 ●-C 大会商品の工夫、ハイレベルな大会・ゆるい大会 ●-C 屋外でやる(芝で、田んぼで砂浜で) ●-C 大人の大会での子どもたちが遊べる時間・空間の確保 ●-C コスプレをしてプレイをする ●-D 親子のチーム、大人のアタックなし部門を設ける、初心者でも楽しくできる ●-D 若い人たちも登録していなくてもいろいろな大会をする (ファミリーなど) ●-C 4 回で相手に返球 ●-C 審判を連盟やクラブチームにお願いして初心者にもハードルの低い大会の運営を計画する ●-D 初心者には審判をする連盟主催の大会でも審判をする ●-D 相互審判ではハードルが高いので連盟が… 【アクティブラーダー研修会グループディスカッションより】</p> <p>◆各市町村連盟推薦チームの予選会出場枠を作る。府内を数ブロックに分け、ブロック大会を市町村連盟と共催。各ブロック上位チームで決勝大会を開催。府連登録チームを、各市町村連盟主催大会に推薦。各市町村と府連の相互推薦を行う。【活性化PT】</p> <p>◆市町村連盟単位での加盟を新設。【活性化PT】</p> |
| OSVF 連盟見解 | ◆ご提案頂いている種々の案件については、体育館の確保から大会の開催条件まで多くの要件を含んでおり多方面からの検討が必要とするので、2023 年度も継続して検討を続けたい。特に大会の年齢別カテゴリーの設定を優先して検討したい。 |
| 改善のすずめ方 | 運営委員会、大会実行委員会にて検討していく。 |

| | |
|--|---|
| カテゴリー | ソフトバレーボールの魅力発信 |
| 項目 | 交流活動 |
| OSVF 専門部 | 普及指導部 |
| アクティブラーダー研修会 や活性化PTにて出された 具体的な意見 | ●-A 男女混合であることをアピール ●-B 皮バレーの人に理解を求める ●-D 他のバレーボールの連盟と交流ゲームをしてソフトバレーを知ってもらおう（ママさんバレーとか）【アクティブラーダー研修会グループ協議から】 |
| OSVF 連盟見解 | ◆OVA では各連盟役員が参加する新年役員懇親会にソフトバレーボールの交流会を実施し、本連盟が運営を担当している。小体連、中体連、高体連の先生方や、実連、クラブ連、ママ連、学連連盟のみなさんにソフトバレーを知ってもらういい機会となっている。特に学校の先生方にソフトバレーを体験していただくことは競技の普及の重要対策と考える。今後とも積極的に取り組んでいく。 ◆連盟加盟チームがそれぞれの地域で交流促進に寄与してもらいソフトバレーボールの魅力発信につなげていくことも可能と認識。 |
| カテゴリー | ソフトバレーボールの魅力発信 |
| 項目 | 講習会・練習会 |
| OSVF 専門部 | 普及指導部 |
| アクティブラーダー研修会 や活性化PTにて出された 具体的な意見 | ●-C 巡回式のソフトバレー教室をいろいろな地域で実施してほしい ●-C 講習会（小学生対象、お年寄り対象、地域） ●-C ねんりんリーグ（試合+勉強会（滋賀）） ●-D 高齢者でも仲良く練習できる ●-D 幅広い年齢層でも一緒に練習できる内容 ●-A 新入会員（個人）にスムーズに溶け込める雰囲気を作る ●-C 集まりに参加してもらおう場所の確保 ●-C 継続的な参加を促すために次回の予定を伝える計画する【アクティブラーダー研修会グループディスカッションより】 |
| OSVF 連盟見解 | ◆現在、府内の市町村において審判講習会等の依頼を受け本連盟役員が講師として出向いている。 ◆連盟加盟チームがそれぞれの地域において行われている練習会にも積極的に寄与することで普及促進を図る。 ◆各地域が小学生、中学生の部、ママさんの部などのミニ大会の開催を行っていくことが愛好者増加につながると考える。連盟役員並びに連盟加盟チームがどのように関与できるのか検討していく。 |

| | |
|--|---|
| カテゴリー | ソフトバレーボールの魅力発信 |
| 項目 | 小学生への働きかけ |
| OSVF 専門部 | 普及指導部 |
| アクティブリーダー研修会 や活性化PTにて出された 具体的な意見 | <p>●-C 小学生等への働きかけを行い、低年齢層の愛好者を増やす。例えば小学校への出前授業へのソフトバレーボールの楽しさを味わってもらおう。先生にも授業に取り入れてもらう。 ●-D 小学校など地域の子どもたちとソフトバレーを取り組む ●-D 小学生にネットを下げたソフトバレーを教える（ハードルを下げる） ●-D 小学生用にコート縮小、ネットを低く ●-D 学校でどんどんレクリエーションとしてやってほしい。【アクティブリーダー講習会グループディスカッションより】</p> <p>◆小学生への指導プランの作成。【活性化PT】</p> <p>◆小学校の体育部会に働きかけ、先生方の指導者育成に努め、小学生でも楽しく出来るソフトバレーの提案をしていけばどうかと思います。【活性化PT】</p> |
| OSVF 連盟見解 | <p>◆競技規則に小学生競技規則があり、小学生に適したネットの高さやルールが定められている。</p> <p>◆小学生チームへの大会参加要請は、ソフトバレーボールの指導普及の一環として取り組んでいるが、小体連との連携が十分ではなく小学生チームの要望と大会開催時期の要望等を掴みきれていない。過去に参加されたチームならびに小体連との連携と情報収集を図る。</p> |
| カテゴリー | ソフトバレーボールの魅力発信 |
| 項目 | 行政への支援要請 |
| OSVF 専門部 | 普及指導部 |
| アクティブリーダー研修会 や活性化PTにて出された 具体的な意見 | ●-C 障害者と行政を巻き込んで【アクティブリーダー講習会グループディスカッションより】 |
| OSVF 連盟見解 | <p>◆府内における障害福祉施設や支援学校等で運動教材としてソフトバレーの実施状況の把握を行う。</p> <p>◆障害スポーツの一貫として実施されている関係団体と連携していく。例：『風船バレーボール』</p> |

| | |
|--|--|
| カテゴリー | ソフトバレーボールの魅力発信 |
| 項目 | 広報活動 |
| OSVF 専門部 | 普及指導部 |
| アクティブラーダー研修会 や活性化PTにて出された 具体的な意見 | <p>●-C 少しでもバレーボールの経験がある人への積極的な勧誘をチラシなどを駆使して実施する【アクティブラーダー講習会グループディスカッションより】</p> <p>◆愛好者が気軽に見られる（府内チーム紹介・他府県チーム活動紹介、練習プランや授業での指導案などの掲載）魅力あるホームページづくり、フェイスブック利活用【活性化PT】</p> |
| OSVF 連盟見解 | <p>◆市町村連盟ホームページに本連盟ホームページのリンクを行い本連盟の周知促進を図る。</p> <p>◆本連盟のホームページの積極的な更新と内容の充実を図る。</p> |
| 改善のすすめ方 | 『ソフトバレーボールの魅力発信』については多岐にわたる面や早い段階での実施が可能なものがあり実現可能なものから検討企画立案していく。 |
| カテゴリー | 審判技術の向上 |
| 項目 | 審判方法 |
| OSVF 専門部 | 審判部 |
| アクティブラーダー研修会 や活性化PTにて出された 具体的な意見 | <p>●-C 審判を連盟やクラブチームにお願いして初心者にもハードルの低い大会の運営を計画する ●-D 初心者には審判をする連盟主催の大会でも審判をする ●-D 相互審判ではハードルが高いため連盟が… ●-D 登録審判資格が厳しすぎる。簡単にできるように</p> |
| OSVF 連盟見解 | <p>◆実施する大会の内容にもよるが、審判方法については相互審判が原則としている。初心者が審判含めてゲーム運営をすることは不安が大きいと予想されるが、大会の中で連盟役員や他チームからの協力を図る。</p> <p>◆審判資格取得について厳しいとの指摘があるが、年度当初に開催している伝達講習会で分かり易く解説している。伝達講習会に参加することで最新の審判技術や競技運営等について学ぶことができることを周知徹底していく。</p> |
| 改善のすすめ方 | 新型コロナウイルス感染症対策の一環として電子ホイッスルでのハンドシグナル等の審判スキルの周知 |